

2006年8月2日

プレスリリース

 本資料は8月2日にチュー
 リッヒで発表されたプレス
 リリースの翻訳版です

**クレディ・スイス・グループ
 2006年第2四半期および上半期業績を発表
 上半期純利益 48億スイス・フラン**

クレディ・スイス・グループは、本日、2006年第2四半期および上半期の業績を発表しました。それによると、2006年上半期は、47億6,200万スイス・フラン（以下CHF）の純利益を計上し、前年同期の純利益の28億2,900万CHFを上回りました。2006年第2四半期の純利益は21億5,800万CHFで、前年同期の純利益の9億1,900万CHFを上回りました。当四半期の新規純資産は301億CHFを計上。自己資本収益率はグループ全体が21.6%、バンキング部門が23.4%を記録しました。

決算ハイライト

単位：百万CHF	2006年 第2四半期	2006年第1 四半期からの 増減率（%）	2005年第2 四半期からの 増減率（%）	2006年 上半期	2005年 上半期からの 増減率（%）
純営業収益	8,788	(20)	18	19,713	33
総営業費用	5,600	(16)	(7)	12,238	11
純利益	2,158	(17)	135	4,762	68
自己資本収益率：グループ	21.6%	-	-	23.1%	-
自己資本収益率：バンキング	23.4%	-	-	25.4%	-
1株当たり利益（CHF）	1.94	-	-	4.25	-
BIS第1分類資本比率（当四半期末 現在）	10.6	-	-	-	-

クレディ・スイス・グループ最高経営責任者のオズワルド・グリューベルは次のように述べています。「市場では予想よりボラティリティが高く、投資家の警戒感が強まりましたが、当社は好調な業績を達成することができました。これは組織統合への努力が功を奏していることと、厳しくなる事業環境をものともしない当社の弾力性を示すものです」。

「世界経済の拡大は引き続き富を創出し、当社が提供する金融商品およびサービス全般に対する需要の増加につながっています。統合されたバンクとしての長期的な成長見通しは有望ですが、当社がこれまでに生み出した価値の保全と株主への還元を強化するため、効果的なリスク管理と厳しいコスト管理の継続を優先しなければならないと考えています」（グリューベル）。

クレディ・スイス・グループ：部門別業績

単位：百万 CHF		2006年 第2四半期	2006年第1 四半期からの 増減率（%）	2005年第2 四半期からの 増減率（%）	2006年 上半期	2005年 上半期からの 増減率（%）
インベストメント バンキング	純営業収益	4,436	(23)	30	10,193	38
	総営業費用	3,133	(26)	(21)	7,381	5
	継続事業からの 税引前利益	1,287	(18)	-	2,851	-
プライベート バンキング	純営業収益	2,913	(6)	15	6,023	19
	総営業費用	1,795	(1)	11	3,605	13
	継続事業からの 税引前利益	1,123	(14)	21	2,431	28
アセット マネジメント	純営業収益	675	(11)	(14)	1,431	3
	総営業費用	649	25	53	1,169	41
	継続事業からの 税引前利益	27	(88)	(92)	261	(54)

インベストメント・バンキング部門

インベストメント・バンキング部門の2006年第2四半期の継続事業からの税引前利益は12億8,700万CHFを計上しました。前年同期の最終損益は、継続事業からの税引前損失5億5,800万CHFでした。2006年第2四半期の業績には、保険適用による訴訟和解金の控除と関連費用4億7,400万CHFが含まれています。一方、2005年第2四半期の業績には特定の民事訴訟の関連引当金の積み増し分として9億6,000万CHFの費用が含まれています。前年同期比正味増収率30%は過去二番目に最高の伸び率でしたが、これはすべての主要事業分野で増収を記録したこと、および大変活発な取引活動によります。同部門の総営業費用は、前年同期に比べ21%減りましたが、これは主として上記の保険適用による訴訟和解金と訴訟費用の影響によるものです。当四半期の営業収益に占める従業員報酬の割合は、2005年通年の実績から2%ポイント改善し53.5%に減少しました。同部門の当四半期の税引前利益マージンは29.0%でした。

プライベート・バンキング部門

ウェルス・マネジメントとコーポレート&リテール・バンキングの両事業からなるプライベート・バンキング部門の2006年第2四半期の継続事業からの税引前利益は11億2,300万CHFを計上し、前年同期の実績を21%上回りました。純営業収益は前年同期比15%増の29億1,300万CHFを計上しましたが、これは主として手数料収入およびフィー収入の増加によるものです。同部門の当四半期の総営業費用は前年同期比11%増となりましたが、これは主として国際市場において現在実施している戦略的成長イニシアチブを反映したことによるものです。同部門の当四半期の税引前利益マージンは38.6%で、前年同期比1.8%ポイント上昇しました。

ウェルス・マネジメントの2006年第2四半期の継続事業からの税引前利益は7億7,900万CHFを計上し、前年同期の実績を31%上回りました。これは、主として大幅な純収益の増加によるものです。当四半期の税引前利益マージンは38.3%で、前年同期を3.1%ポイント上回りました。新規純資産は165億CHFで、年率換算ベースで9.0%の高い伸び率を記録しました。

コーポレート&リテール・バンキングの2006年第2四半期の継続事業からの税引前利益は3億4,400万CHFを計上し、前年同期の実績を2%上回りました。当四半期の税引前利益マージンは、前年同期を1.1%ポイント下回る39.1%となりましたが、これは主として当四半期の信用損失引

当金の正味取り崩し金額の減少の影響によるものです。当四半期の税引前平均経済リスク資本収益率は 49.3%で、前年同期を 6.7%ポイント上回りました。

アセット・マネジメント部門

同部門の 2006 年第 2 四半期の継続事業からの税引前利益は 2,700 万 CHF を計上し、前年同期の実績を 92%下回りました。この減益は、主として同部門の組織再編成（特に米国での組織再編）に関連した費用 1 億 5,200 万 CHF によるものです。当四半期の総営業収益は、前年同期比 14%減の 6 億 7,500 万 CHF を計上しましたが、これは主として投資利益の減少によるものです。当四半期の総営業費用は前年同期比 53%増で、これは主として上記の組織再編関連費用の計上によるものです。同部門の当四半期の新規純資産は 155 億 CHF でした。

アセット・マネジメント部門の組織再編

クレディ・スイスは、アセット・マネジメント部門を世界的な観点から戦略的に見直し、同部門の将来の成長を確保するための対策を明らかにしました。中でも重要な対策は米国における業務再編で、これは従来型資産運用戦略の多くにおける投資アプローチを変更し、米国における基盤強化と事業拡大を図るものです。クレディ・スイスは今後とも米国におけるアセット・マネジメント事業に注力します。今後、米国事業はエンハンスド・インデック、クオンツ型運用戦略、ストラクチャード商品などの成長分野、およびオルタナティブ・インベストメントなどのすでに強みを有している分野に重点的に取り組みます。

新規純資産

ウェルス・マネジメントの 2006 年第 2 四半期の新規純資産は 165 億 CHF で、この伸び率は年率換算ベースで 9.0%です。この大幅な増加は、とりわけ欧州および米国における幅広い顧客基盤からの資産流入によるものです。アセット・マネジメント部門の 2006 年第 2 四半期の新規純資産は 155 億 CHF で、これは主に米国における資産流入でした。これにより、クレディ・スイス・グループの 2006 年第 2 四半期の新規純資産は 301 億 CHF となりました。クレディ・スイス・グループ全体の運用資産総額は 2006 年 6 月 30 日現在 1 兆 3,709 億 CHF で、2006 年 3 月 31 日現在の実績を 1.8%下回りました。これは主に当グループにとって不利な市場および外国為替関連動向が発生し、新規純資産によって一部相殺されたものの、それを上回るマイナスの影響があったためです。

2006 年上半期業績

クレディ・スイス・グループの 2006 年上半期純利益は、47 億 6,200 万 CHF を計上し、前年同期の 28 億 2,900 万 CHF を上回りました。クレディ・スイス・グループの 2006 年上半期の自己資本収益率は 23.1%、バンキング部門は 25.4%でした。

ウインタートウル

ウインタートウルの業績は今までクレディ・スイス・グループの一部門として報告していましたが、2006 年 6 月に同事業の売却合意の成立が発表されたことを受け、クレディ・スイス・グループは財務業績の修正をおこない、同事業を非継続事業として反映するようにしました。同事業の 2006 年第 2 四半期の純利益は 2 億 8,600 万 CHF でした。

今後の見通し

世界経済が継続的に成長を継続しており、クレディ・スイス・グループの成長にとって好ましい環境となっています。統合されたバンクとして、特にエマージング市場における富の創出と企業

活動の活発化から利益を得ることができる立場にあります。統合化による収益と業務の相乗効果とコスト管理への取り組みにより、収益力のさらなる向上が期待されます。

クレディ・スイス・グループでは、金利水準は今後三ヶ月間安定的に推移し、株式市場は回復傾向を示し、通貨市場は沈静傾向が続くと見えています。

本件に関するお問い合わせ先

コーポレート・コミュニケーションズ

梶野 勇

Tel 03 4550 9893

Email isamu.kajino@credit-suisse.com

クレディ・スイスについて

クレディ・スイスは、世界有数の銀行として、インベストメント・バンキング、プライベート・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開し、アドバイザー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイスは、世界 50 ヶ国以上に拠点をもち、約 40,000 人の従業員を有しています。

予測情報に関する注意事項

本プレス・リリースには予測情報に該当する記述が含まれています。さらに、将来、当社および当社に代わって他の者が予測情報に該当する内容の声明をおこなう場合があります。かかる予測情報には当社の計画、目的もしくは目標に関する声明、当社の将来的な業績もしくは見通し、一定の偶発事由による当社の業績に対する潜在的な影響およびかかる声明の基礎となる前提事項などが含まれます。「信じている」、「期待している」、「予期している」、「企図している」、「計画している」およびこれらに類似の表現は予測情報であることを示すために使用していますが、予測情報かどうかを見分ける決定的な要因ではありません。適用される法律により要求される場合を除き、当社は特にこれらの予測情報を更新することは予定していません。予測情報の性質上、予測情報には一般的または具体的な固有のリスクや不確定要因が伴い、予想、予測、見通しおよび予測情報に記載もしくは暗示されたその他の結果が達成されないリスクが存在します。いくつかの重要な要因によって、実際の結果が予測情報に含まれる計画、目的、予想、予測および企図と大幅に異なる場合があります。これらに留意して下さい。これらの要因には以下のものが含まれます。(i) 市況および金利の変動、(ii) 一般的には世界的な経済力、および特に当社が業務をおこなう国の経済力、(iii) 相手方の当社に対する義務履行能力、(iv) 会計、金融、貿易および税務の方針の影響およびこれらの方針の変更ならびに為替変動、(v) 戦争、社会不安、およびテロなどの政治的、社会的情勢、(vi) 当社が業務をおこなう国における外国為替管理、公用徴収、国有化もしくは資産の没収、(vii) 十分な流動性を維持し、資本市場に参入する能力、(viii) システム故障、人的エラー、もしくは手続の適正な処理不能等の業務運営上の要因、(ix) 当社が業務をおこなう国における、規制当局による当社の事業および活動に対する措置、(x) 法律、規制および会計原則もしくは実務の変更による影響、(xi) 当社が業務をおこなう地理的な地域および営業地域における競争、(xii) 有能な人材を保有し、採用する能力、(xiii) 当社の評判を維持し、ブランドを促進する能力、(xiv) 市場を拡大し、費用を管理する能力、(xv) 技術の変化、(xvi) 当社の新商品および新サービスの適時の開発および導入、ならびに顧客による当該新商品および新サービスの認識された全体的な評価、(xvii) 買収、および買収後の事業統合を成功させる能力、(xviii) 訴訟およびその他の偶発事由による不利な結果、および (xix) 当社の上記リスクに関する管理能力。上記の重要な要因のリストはすべての要因を列挙したものではありません。予測情報を分析する場合、上記の要因およびその他の不確定要因および事由を注意深く検討すると共に、米国証券取引委員会に提出された当社の直近のフォーム 20-F およびフォーム 6-K に記載されたリスクをも検討して下さい。